



Lis Blanc

No.56

学報リスブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号
tel 022-372-3254 URL <http://sendai-shirayuri.ac.jp>

(転用・転載を禁じます)

編集/大学広報室

本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 SPUM来学
- 03 韓国の大学と提携
- 04 エッセイ
名誉教授就任
- 05 白百合祭報告
教育研究活動
- 06 お知らせ
- 07 本学の各種講座・イベント案内
- 08 一般入試試験概要
イルミネーション・編集後記



本学のめざす教育について

仙台白百合女子大学 人間学部長 牛渡 淳

これからの本学の教育の重点方針として、次の三点を考えています。第一に、中央教育審議会が求めている「学士力」の強化です。「学士力」とは、大学四年間に身につけるべき知識、技能、態度、創造的思考力で、すべての学科の学生に共通に求められる力のことです。

質の向上です。特に、資格取得が中心となる学科の専門性に関しては、実践的な力量をより一層身につけられるよう指導体制を強化することとあわせて、国家試験の合格率の大幅な向上をめざして教職員一同力を合わせて指導の充実に取り組んでいきます。

例えば、「知識」としては、異文化の理解や社会情勢・自然等の理解が入ります。「技能」としては、日本語や外国語を読み書き話す力、論理的思考能力などがこれにあたります。「態度」としては、倫理観、チームワーク力、リーダーシップ等が入ります。「創造的思考力」とは、これらの知識・技能・態度を総合的に活用して問題を解決する能力です。本学でも従来、共通科目等でこうしたねらいの教育を提供してきましたが、今後は、より本格的に、そして確実にこれらの能力が身につけられるような教育プログラムや評価方法の開発に全学的に取り組み、高い学士力を身につけられる大学をめざします。

第三に、グローバルな視野を形成できる教育環境を強化することです。特に、留学生の交換を促進するために諸外国の提携大学数を大幅に増やしていきます。すでに今年度、従来のアメリカ、カナダに加えて、韓国の大学との提携を結び、留学生の交換を始めましたが、さらに、現在、中国の大学との提携を検討しています。また、国際教養学科は、来年度、新入生全員が無料で外国訪問できる「異文化体験」の授業を設け、人間発達学科でも台湾の幼児教育施設を訪問するツアー（希望者のみ）を計画中です。

本学は、これから、上記の3点を通して、「質(クオリティー)の高い大学」をめざしていききたいと思っています。



SPUM来学

十月二十一日から一週間、フィリピンの St. Paul University Manila の学生三十二名と教職員三名がスタディツアーとして本学を訪れた。

初日の歓迎式において、和田学長は本学と同じシャトル聖パウロ修道女会を設立母体とするSPUMの学生たちに、私達は皆大きなポーリニアン (Paulinian) ・ファミリーの一員であること、昔、学長自身がこの大学で学士号を取得し、多くのよい思い出があることなどを披露された。また最後に「このプログラムは神のご計画であり、一週間の研修を通してお互いにポーリニアン精神を深めることが出来るよう心から期待している」と述べて、歓迎の意を示された。

セント・ポール大学マニラ校の国際関係室長と語学開発センター長を兼務されるシスター・フロードリツァ教授は、スタディ・ツアーの団長として、次のようにご挨拶なさいました。

遙か昔二六九六年にフランスのシャトルに最初の修道女会が誕生し、二〇〇九年現在では、聖パウロ修道女会の九割の修道女がこのアジア地域で奉仕活動を展開しています。

さて、半田先生、スミス先生その他の方々が、セント・ポール大学マニラ校と仙台百合女子大学の交換プログラムの可能性を模索くださってから三年を経て、今日セント・ポール大学マニラ校の学生三十二名が、最初の交換プログラムのために、この場に臨んでいます。

マニラから日本まで二千マイル以上の旅をして、今しがたここに到着いたしました。仙台百合女子大学の学長先生はじめ

皆様の大変心のこもった歓迎に感謝申し上げます。聖パウロがおっしゃる通りに、「キリストの愛が私たちの中に宿っています。」その愛がパウロ会に伝わる私たちを結び付けてくれるのです。

この旅は、私たちにとって夢のようです。今回のことを通して、神様の力を実感することができました。ニュースでご承知の通り、フィピンはとても強い台風に見舞われ、出発前夜は激しい雷雨になりましたが、祈りが聞き届けられ、一夜明けると快晴になりました。それで私たちは安全に旅が出来たのです。今こうして臨席出来ますことを大変嬉しく思っております。

皆様のご歓迎に重ねて御礼申し上げます。

ご挨拶を終えられて、シスター・フロードリツァ教授は、和田学長に記念の品としてフィピンの家族を模した聖家族の像を贈られました。

皆様の心を温め、神様の愛を伝えるために、私たちは日々努力を続けています。どうか、ご協力をお願いします。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

このプログラムを通じて、お互いに学び合い、成長を遂げることを目指しています。どうぞ、ご期待ください。

「国際交流センターでの活動」

Sr. Bernadette

神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。
ローマ人への手紙 八章二十八節

聖パウロのこの力強い言葉は、今、ここ、仙台に移り住んできた私にとっての座右の銘です。もの事や状況が行き詰ると、必ずといっていいほど最高最善のタイミングで、お互い導かれて、助けてくれる人々、友人が集うからです。国際交流センターに就任して、約三ヶ月、私は皆さまの親切さ、寛容さに驚いてばかりです。国際交流センターでは、交換留学はもちろんのこと、楽しい昼食を共にしたり英語を教えたり、私自身も皆さんにお会いできるのが嬉しいです。学内の教職員の皆様と共に働くすべての機会を大切にしたいと思っています。どうか気軽に、国際交流センターを訪れてみてください。文化・言語・宗教・価値・慣習・生活様式など、それぞれ違いを超えて、私たちの活動が平和と調和を生み、日本とフィリピンの架け橋となり、より良い世界がつけられますように。主の平和!



日本とフィリピンの両校の学生にとって、生涯、忘れがたい思い出となることでしょう。

Report ▶ 韓国カトリック大学との協定

韓国カトリック大学との提携

国際交流センター長 矢口 洋生

このたび、仙台百合女子大学とソウル市郊外にある韓国カトリック大学とが協定を結ぶこととなりました。同大学は総合大学となつたのは九九五年ですが、聖ヨゼフ神学校として設立されて以来百五十年以上の歴史をもっています。現在、三短大部に加えて十五学部、八学科の編成となつていて学生数は二万人弱です。特に医学部が有名で千二百床の韓国最大規模の病院を併設しています。「カトリック精神に基づいた『真理・愛・奉仕』を教育理念としているのですが、その結果、中央日報の大学総合評価によって九年連続、「教育と研究」の総合三位という評価を受けています。

二〇一〇年度より交換留学のプログラムが始まります。百合合からの留学生は本学に授業料を払い、留学費用は渡航先での住居費、食費、生活費に限定されるので、経済的負担は最小限に抑えられることでしょう。仙台からは直行便が出てくるのも大きな魅力です。外国語をふたつ身につけられると、ビジネスの面でも学問の面でもチャンスが飛躍的に増えます。大学生活の様々な計画の中に、韓国への留学をチャレンジとして含めることを考えてみてはいかがでしょうか。



■オリエンテーション
本学と同じ修道会によって設立されたフィリピンのセントポール大学マニラ校 (St. Paul University Manila: SPUM) から、学生三十二名 (他に団長以下引率者三名) がスタディ・ツアーのために十月二十一日から二十八日まで来仙し、本学を訪問した。二十一日に本学を訪れた一行はオリエンテーションにて学生・教職員ともにそれぞれの校歌を斉唱した。団長のシスター・フロードリツァ (Sr. F. Rodrija) と和田学長が挨拶を交わし、その席上、フィリンからの記念品として本学に聖家族像が贈られた。

■シスター・フロードリツァ講演会
二十一日、オリエンテーションを終えたSPUMの一行はキャンパスツアーを行い、本学の施設を見学した。一方、団長のシスター・フロードリツァは、本学学生に対して、セントポール大学マニラ校の概要と国際交流への取り組みについて解説する講演を行った。設立母体のシャトル聖パウロ修道女会がどのような経緯でフィリンに定着し、今日の様な姿にまで発展してきたのか、またセントポール大学が目指す国際交流の展望について、スライドを用いながら分かり易く解説され、その素晴らしい実績に学生達はフィリンの姉妹校に対する認識を新たにしていった。

■元寺小路教会ミサ
二十五日 (日)、滞在五日目、仙台市内にある仙台教区カテドラルのカトリック元寺小路教会のミサに参列し、日

本でのミサを体験した。その後、教会で行われたバザーに参加し、仙台在住のフィリンの方々と交流やショッピングなどを正午まで楽しんだ。午後からは本学キャンパスに移動し、健康栄養学科の佐々木裕子先生とゼミ生とで用意した日本食体験をし、日本の食文化についての理解を深めた。また、前日から開催中の日白百合祭に参加し、後夜祭のライブなども楽しんだ。

■フェアウェルパーティー
二十六日、午前中に笹かま工場の見学と松島観光を楽しんだ。一行は、夕方再び本学を訪れ、フェアウェルパーティーで本学学生・教職員と仙台最後の夜を過ごし、同日夜に帰国の途につくため、仙台へと向かった。パーティーでは、フィリンの学生が美しい母国の衣装を着て参加夕食を囲みながら、旅行中の写真スライドやビデオゲーム、プラスバンドや軽音楽部の演奏、フィリンの学生のダンスなど様々な出し物を楽しみ、ひとときを過ごした。パーティーが終わり、フィリンの方々にスタディ・ツアーの振り返りが行われ、双方の学生達が別れを惜しむ中、フィリンのバスが走り去るまで本学関係者は手を振っていた。

(記事・大学広報室 谷藤大介)

▶ 白百合女子大での3500日



健康栄養学科長 山本 仁

三 月三十一日に宮城県知事から定年退職の辞令を受け取り、休む間もなく四月一日の着任当日には飯山学長から、健康栄養学科教授に任用する旨の辞令を交付された。公務員勤務の傍、白百合短大や医師会看護学校などで非常勤講師を引き受けていたので、担当する講義や実習には余り不安は無かった。しかし専任教員として大学の内側に入ってみると、目新らしいことや想定外のことも多く、気の抜けない日々の連続だった。そして約十年、大学教員生活も残すところ五ヶ月ほどになってしまった。

私の在職期間中で特に印象に残っているのは、入試広報委員を勤めた四年間である。大学を取りまく社会環境は大きく変化し、「大学全入時代」の圧力は年々強くなっている。本学でも入学の質と量の確保を目指して、様々な取り組みを行ってきたが、これからの数年間が正念場と思われる。仙台白百合女子大よ永遠に」と祈らずにはいられない心境である。



▶ パンを水の上に投げよ



総合福祉学科 谷中 輝雄

私 の最初の職場は財団法人鉄道弘済会社会福祉部でした。五年間、当時理事職に遊佐敏彦先生（明治学院大学教授）がいらっしゃいました。とても偉い理事から平社員の私に直接電話がかかってくる。「昼休みに」と。職場は上野。密会の場合はあんみつ屋。密談は聖書研究、詩篇が多かった。その多くは忘れてしまいました。しかし、今でもはっきりと憶えている言葉は「パンを水の上に投げよ」（伝道の書11・1）でした。言葉にはだしませんでしたが、「そんなムダなことを」と考えてました。そこに「このよな人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしぼまないように、そのなるところは皆栄

える」と詩篇を読みあげるのでした。やどかりの里という精神障害者のための社会復帰活動を推進していた苦しい時にもこの言葉は私の頭の中にありつづけました。今ふりかえりますとこの五年間の職場での体験と遊佐先生との出会いが私の基本にあつて、その後、福祉の実践（四十五年）と教育の実践（十三年）を歩いてきたのだと思います。教育実践の六年間が仙台白百合女子大学であつたことは感謝なことでした。ちなみに遊佐先生は宮城県柴田郡大河原町の出身。十一才の時仙台郵便電信局給仕。その後賀川豊彦の求めに応じて職業紹介事業に従事。福祉の道一筋の人。

▶ ピンクリボンスマイルウォークに本学学生が参加



十

月三十一日（土）に仙台市中心部で開催されたピンクリボンのイベントに、本学の学生五十名がスタッフとして参加しました。「朝日新聞」十一月一日（日）付には、本学学生がおそろいのピンクのシャツを着用し、大学名入りのプラカードを掲げながら、乳がんの早期発見の大切さを市民に伝える活動に参加する様子の映る写真が、本学学生のコメントとともに掲載されました。



▶ 白百合祭を終えて



白百合祭実行委員会 委員長 人間発達学科 3年 菅野 志麻

今

年度の白百合祭は、天候にも恵まれた秋晴れの空の下、二日間無事に開催することができました。有志団体の皆さんや先生方のご協力もあり、ご来場いただいたお客さまに「楽しく幸せな時間」を過ごしていただけたことを実行委員一同大変うれしく思っております。本番の二日間があつたという間に終わってしまったが、皆さんの心に残る白百合祭になったら幸いです。また、白百合祭を大成功させることができたのも実行委員の皆が一致団結して頑張ってくれたおかげです。委員長として感謝するとともに、誇りに思います。来年の白百合祭にもご期待ください。



Report 名誉教授就任

一九六六年の仙台白百合短期大学開学時から二〇〇九年三月三十一日をもって退職するまで四十三年間に渡り教鞭をふるわれた高橋伸子先生がこのたび名誉教授に就任されました。



高橋伸子氏、9月2日に本学名誉教授に就任



- 【学内役職】
 - 一九九二、短期大学 家政科 食物栄養専攻主任（一九九七・三）
 - 二〇〇〇、女子大学 人間学部 健康栄養専攻主任
 - 二〇〇二、女子大学 人間学部 健康栄養学科 学科長・管理栄養専攻主任
 - 二〇〇三、女子大学 人間学部 人間生活学科・健康栄養学科 学科長・管理栄養専攻主任
 - 二〇〇五、女子大学 人間学部 健康栄養学科 学科長・管理栄養専攻主任（二〇〇六・三）
- 【受賞】
 - 一九九三年三月 栄養改善功労者宮城県知事褒状 受賞
 - 一九九三年十月 栄養士養成功労者厚生大臣表彰状 受賞
- 【その他】
 - 一九九六年四月二十日 「ゆりの会」(仙台白百合短期大学 栄養士同窓会) 結成 現在 名誉顧問

▶ はたして幸せな老後生活が期待できるか？



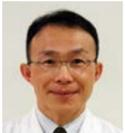
総合福祉学科 中熊 靖

秦

の始皇帝をはじめ、古来多くの人が追いつめてきた「長寿」が、日本では平均寿命が男女とも世界トップクラスとなり、現在ほぼ達成されていると言える。長生きはできたが、それが幸せにつながるかどうかは身近な環境や社会システムによって左右される。「お年寄りの面倒は家族がみる」という日本の醇風美俗はさまざまな理由で力を弱めてきている。それを補うのが経済面、健康面、生活自立面を支える年金・医療・介護などの社会保障システムであるが、その持続可能性について疑問が呈されている。それは、それぞれの制度設計が非常

に甘い予測の下でなされてきた面が強いからである。2005年から人口減少社会に突入し、その影響の大きさが指摘されるようになっていくが、国立社会保障・人口問題研究所の推計に疑問があり、事態はもっと深刻であることが想定される。今夏の総選挙によって政権交代が行われた。これまで明らかにされてこなかった実態、将来予測を正しい情報に置き換え、制度設計をやり直す必要があると考える。年金・医療・介護のシステムは絶対に破綻させてはならない。今後、正しい取り組みが行われることを期待したい。

▶ かまぼこで、メタボ予防の可能性 — かまぼこ摂取による抗肥満効果 —



健康栄養学科 小嶋 文博

肥

満、高血圧、耐糖能異常、脂質代謝異常などの危険因子が集積するメタボリックシンドローム（以下、メタボと略）の患者が予備群を含め二千万人超もいると推定されるため、その対策が急務とされる。魚に関する研究では、魚油の摂取による脂肪蓄積抑制効果などが遺伝子発現のレベルで調べられているが、魚肉タンパク質の摂取による抗肥満効果に関してはまだ十分には調べられていない。

そこで、かまぼこを用いて細胞レベルと動物レベルで実験を行うことで、かまぼこ（魚肉タンパク質）には抗メタボ効果があるのかどうかを調べてみた。その結果、細胞レベルでは、笹かまぼこ・竹輪・板かまぼこなどの各種かまぼこに、脂肪細胞における脂肪の蓄積を抑制する効果のあることが分かった。また、動物レベルでは、かまぼこを30%添加した食餌で飼育することで、高脂肪食を摂取しても体内の脂肪細胞の肥大化が抑制され、かつ、脂肪細胞中のUCP-2の発現が活性化することによってエネルギー産生が亢進（脂質代謝が活性化）し、体重1gを増やすのに必要なエネルギーが増大することが分かった。これらのことにより、かまぼこを摂取することで脂質の代謝が活性化され、太りにくくなるという、抗メタボ効果が得られる可能性のあることが分かった。

公開講座紹介

public lecture

今年度7月に開催してご好評いただきました、文化功労者の岩田先生の講座の続編を、2010年2月27日から5回シリーズで開講いたします。是非お越しくださいませようご案内申し上げます。

2009年度 仙台白百合女子大学 オンキャンパス社会人講座

テーマ 「西洋思想の源流—古代ギリシアの思想—」(全5回)

講師 岩田 靖夫 氏 (仙台白百合女子大学カトリック研究所長
仙台白百合女子大学名誉教授)

- 日時 毎週土曜(全5回) 13:00~15:00
- 2010年2月27日・3月6日・3月13日・3月20日・3月27日
- 会場 仙台白百合女子大学 1号館 144室(本学キャンパス)
- 対象 18歳以上の方ならどなたでも受講できます。
- 定員 100名
- 受講料 3,000円(全5回、テキスト代込み) ※納入については初回講座日に受付にお納めください。
- 申込締切 2010年2月19日(金)
- 申込方法 氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号をご記入のうえ、はがき、TEL、FAXまたはE-mailでお申込ください。



現代文明の普遍的な基礎として、理性による真理の探究と、人間の自由の自覚による開かれた社会の建設が挙げられるが、この両者は古代ギリシア文明に由来する。人類は、理性と自由をいかにして自覚したか。このことの説明が本講座の眼目である。
テキスト：岩田靖夫著『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書)

お申込・お問い合わせ先 仙台白百合女子大学 大学広報室 〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号
大学広報室直通:TEL 022-374-4475 FAX 022-374-5082 大学代表:TEL 022-372-3254 FAX 022-375-4343
E-mail: koho@sendai-shirayuri.ac.jp ホームページ http://sendai-shirayuri.ac.jp

第2回白百合 フォトコンテスト ~入賞作品紹介~

今回は昨年度を上回る応募がありました。白百合祭来場者の一般投票も取り入れて選考された今回の優秀作品をご覧ください。

最優秀賞

叶 亜希子 「すてきな仲間たち」



同窓会賞 浅岡 京子 「夏の昼下がり」



同窓会賞 浅岡 京子 「夕焼け空の下で」



優秀賞

石川 香澄 「ゆかいな仲間」



優良賞

佐藤 由梨花 「DASH!!」



—下記の皆様よりご協賛頂きました。—

仙台白百合女子大学・短期大学同窓会
ハリウコミュニケーションズ株式会社
株式会社河北アドセンター
株式会社毎日広告社仙台
株式会社廣済堂
株式会社栄美通信

(敬称略)
ありがとうございました。

同窓会報告

同窓会会長 渡辺 博子



同窓会は、5月初めに会員の皆様方にお届けする同窓会報「白百合」の発行、6月第1日曜日に開催の同窓会総会、そして3月に卒業される方々をお迎えする同窓会入会式、この3つが活動の中心となります。その間、4月には新幹事さんを迎えての幹事会、10月は大学祭の中でホームカミングディの開催(活躍する卒業生の紹介や今年は初めて地元で採れた新鮮野菜の販売・・・収益金はチャリティーへ)。なお、通常の仕事として会員の皆様方の住所変更の確認なども行っております。常に役員会を開き、同窓会のあるべき姿を考えながら運営することを心がけております。

同窓会会員の皆様方に満足いただける同窓会であるように、と願いながら役員・事務局一同、力を合わせて取り組んでおります。



ホームカミングの様子

紫山だより 紫山の秋色

紫山リエゾンオフィス 山田 定道

秋本番を迎え、夕暮れ時に紫一色になるときの学園は、思わず感嘆の声をささずにはられないほど美しく、誰をも詩人にしてしまう大きな力を感じさせます。

紫山リエゾンオフィスが稼働をはじめから半年が経過しました。紫山の中での連携は今までも深まり、少しずつ成果を見せはじめています。この流れの中で、大学との連携をどのように図るかは模索中ですが、教育の内容をお互いに理解するためにも、まずお互いに「知る」・「見る」ことが大事なのではないかと思えます。大学の教職員の方々だけでなく、学生の皆様も同じ「白百合ファミリー」の一員として交流を深めていきましょう。

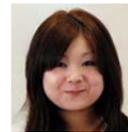
そして、「学ぶなら白百合で」をキーワードに、毎日を過ごしていきたいと思えます。

紫山での園児・児童・生徒の日頃の様子や活躍については、是非HPをご覧ください。祈りから始まり感謝の気持ちを忘れずに毎日を過ごしていることがご理解いただけたと思えます。そして、紫に染まる紫山キャンパスにお出かけください。

ホームページ:
<http://www.shirayuri.izumi.sendai.jp/>

全日本高校・大学書道展 「大賞をいただいて」

健康栄養学科 3年 結城 和沙



私は小学校3年生のころから書道を続けてきました。小学生から書道展で入賞していましたが、高校生になって全日本レベルの書道展に初めて作品を出してみ、自分の無力さに気づきました。今回の書道展は5度目の挑戦でした。大賞をいただいた時はすごく嬉しかったです。私の作品は読売新聞に掲載されました。その時はあまり嬉しくて、夏休み中の大学に来てクラスアドバイザーの先生に報告しに行きました。先生も喜んでくれました。宮城県では私一人が大賞受賞でした。大阪での受賞式では全国の人が集まっていて、緊張しながら賞状をいただきました。

自分としては最後の挑戦かもしれないと思いながら、一枚三時間以上かかる作品を何枚も書きました。この頑張りが認められてすごく自信ができました。この自信を生かして4年生での臨地実習や教育実習に励みたいと思います。

最後に、指導していただいた先生、見守ってくれた両親、迷惑をおかけしたサークルのみなさんに感謝の気持ちをこめて一言させていただきます。みなさんのおかげで受賞できた大賞です。本当にありがとうございました。



追悼の祈り

カトリック教会では、11月2日「死者の日」を亡くなられた全てのキリスト者を記念する日として、特別に祈ってきました。

本学はカトリック大学として、11月4日(水)昼休みのバイブルサーヴィスの時間に「追悼の祈り」の集いをもって、亡くなられた本学の教職員、学生の方々及びその家族、友人のご冥福をお祈りいたしました。

司式は原田雅樹神父(人間発達学科准教授)で、聖歌、聖書朗読、講話、その後亡くなられた方々のお名前をお一人ずつ読み上げ、沈黙のうちに祈りました。

イエスが死んで復活されたように、
神は、イエスのうちに眠った人々を
イエスとともに連れて来られる。

アダムによって すべての人が死ぬ者となったように、
キリストによって すべての人が生きる者となる。

(死者の日のミサ入祭唱り)



仙台白百合女子大学 クリスマスマサ&コンサート

日時 2009年12月17日(木) 会場 本学講堂

当日のプログラム予定	10:00~11:30	▶ クリスマスマサ
	13:00~14:00	▶ 昼休み
	14:00~15:00	▶ クリスマスコンサート
		▶ 学生会クリスマス会

クリスマスミサ&コンサートに参加ご希望の方は氏名・郵便番号・住所・電話番号をご記入のうえ、下記までお申し込みください。なお、クリスマス会は本学学生のみ参加となります。

問い合わせ先 仙台白百合女子大学 大学広報室
〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号
Tel. 022-374-4475(直通) FAX. 022-374-5082
E-mail: koho@sendai-shirayuri.ac.jp

白百合オリジナルグッズの紹介です。

本学インカレ売店(アマカ ビア)にて販売しています。

プラチナ Preppy 1本 188円(全7色)
【別売】カートリッジ
ブラック 2本/84円



プラチナ Preppyのペン先はイリジウム合金、インクに合わせた電着塗装仕上げが美しく書き味は細めで硬くシャープなイメージ。就職活動の際の履歴書用として最適な一本。本格的な万年筆でコストパフォーマンスに優れている。

一般入学試験概要

	出願期間	試験日	合格発表日	選抜方法
A日程	1月6日(水)～1月21日(木) (当日消印有効)	2月5日(金)	2月13日(土)	①国語総合(ただし古文・漢文を除く) ②英語Ⅰ・Ⅱ ③選択(世界史B、日本史B、政治・経済、 数学Ⅰ・Ⅱ、生物Ⅰ、化学Ⅰより1科目選択。 ただし健康栄養学科に出願する方は 生物Ⅰ、化学Ⅰより1科目選択)
B日程	2月16日(火)～2月24日(水) (当日消印有効)	3月3日(水)	3月9日(火)	①国語総合(ただし古文・漢文を除く) ②英語Ⅰ・Ⅱ

※1. 一般入試A日程は、本学と盛岡会場【ホテル東日本】で実施します。
※2. 詳細については別途お問い合わせください。

連絡先・資料請求先 仙台白百合女子大学 入試広報課

〒981-3107 宮城県仙台市泉区本町6番1号 TEL 022-374-5014 (直通) FAX 022-374-5019
URL <http://sendai-shirayuri.ac.jp> E-mail nyushi@sendai-shirayuri.ac.jp



正門付近の新しいクリスマスイルミネーション

●ご協力ありがとうございました●

仙台白百合学園

〒981-3205 仙台市泉区紫山1丁目2番1号
TEL:022-777-5777

仙台白百合女子大学・短期大学同窓会

〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号
TEL:022-372-3595

みやぎインターカレッジコープ 仙台白百合女子大店

TEL:022-771-2391

社会福祉法人 仙台白百合会

〒981-3107 仙台市泉区本町20番15号
TEL:022-218-3008

編集後記

四季のうち冬が好きだという人は少ないそうです。しかし本学正門前のクリスマス・イルミネーションが最も映えるのも、寒く厳しい季節の空気の中ではないでしょうか。冬だからこそ家の温かさを実感できるともいえます。130年前に函館に到着した3人のmissionaires宣教師たちもこの異国の地の冬はさぞ寒かったでしょう。それでも彼女たちはこの地とそこに住む人々を自分の家のように愛しました。その愛の表れの「家」として在る、今の白百合を想います。パウロやヨハネは、この地上を寄留地のように言いますが、人(ラテン語: homo)となられた神は人間のうちに住まいたもうた、私たち自身が神の住まい(家home)である、とも言います。アドヴェント(待降節)からクリスマスのこの時期、キリストを迎える「家」としてありたいと思います。宗教・民族・文化を超えて尊重されるべき人間 homoの尊厳。その源を、厳しい中にもあたたかさに満ちた神の愛に求めることができるのであれば、それは飼ひ葉桶に寝かされた幼子イエスの姿の中に見出されるのではないのでしょうか。(宮崎 正美)

Thanks!